

58年4月27日(水曜日)

# SAK だより

神奈川県スキー連盟  
横浜市神奈川区台町16-1  
ソレイユ台町 407号室  
電話 045(311) 8907  
発行者:清水清則  
編集:中野善次郎

# 第38回国民体育大会 冬期大会



## 草津

上信越高原国立公園

### 河野団長先頭に

### 堂々の入場

●会期 昭和58年2月22日～25日  
●会場 群馬県草津町

第38回の国体スキー競技会は、二月二十二日から群馬県の草津スキー場で開催されました。今年には河野会長が団長として参加され、全国の注目を集めました。三十一人の選手のうち、大会直前に会記、汐見の昨年入賞の両選手が参加出来ないというアクシデントがあり大変残念でありました。しかし全体的には毎年レベルアップはしております。

雪国の選手に比べ技術的な面は決して劣っていません。それがアルペンもクロスカントリもタイム差が出るのは、まず練習不足が原因です。同時にパワーの不良がみられます。これは夏のシーズンオフの時から取り組み方の違いが大きい様です。この点の意識を強調させて、今後は更に強力な選手を育成し成績を上昇させたいと思っております。赤城国体のキャッチフレーズで開催された草津スキー場は関東の我々には大変親しみ易いスキー場



## 健闘

### ●アルペン競技

- (成年女子一部) 大下桃子(日本女子大) 32位
- 高木由美子(カメ) D F
- (成年女子二部) 池田美幸(スポーツマン) 21位
- 松岡雅子(川崎スキー) 31位
- (少年女子) 熊谷総恵(日大藤沢高) 40位
- 沼田直美(関東学院) 61位
- (成年男子一部) 羽賀清(横浜スキー) 65位
- 伊藤明成(ユーベル) 74位
- 川崎圭太(川崎スキー) 81位
- 榎並雪彦(平塚スキー) D F
- (成年男子二部) 柏木勉(川崎ウルル) 20位
- 馬場敏雄(アルペン) 39位
- 菊地富士夫(横浜スキー) 77位
- (成年男子三部) 岡本数英(国電中原) 37位

### ●ノルディック競技

- (女子一部・5km) 豊田美津子(逗子スキー) 32位
- 矢野知子(上智大) 34位
- (成年男子一部・15km) 松坂雄治(専修大) 58位
- 米山克治(東芝) 84位
- 倍賞耕治(東芝) 90位
- (成年男子二部・15km) 菊地日出夫(横浜スキー) 28位
- 笠原清治(東芝) 38位
- 藤木豊(日産車体) 45位
- (成年男子三部・15km) 北川松男(横浜スキー) 30位
- (コンパインド一部) 西館健吾(雪稜) 28位
- (男子リレー) 神奈川県スキー連盟 19位



副会長 小林 俊輔

今シーズンは年末雪が少なく心配されたが、シーズンを通しては平年並みというところで県連も予定した行事を大過なく終了することができました。細部にわたっては反省し改善すべき点も多くあるかと思いますが、それについてはこれから検討して来シーズンはさらに成果が上がるようにしたいと考えています。昨年七月、新執行部が発足してから早速評議員会で承認をいただいた方針の実現にむかって一同力を併せてがんばって参りました。第一として地区協会と懇談を各協会の協力で行い、県連に対する要望や運営についてのご意見を伺いました。地区協会懇談会は、今回は特に

## 雪の国体に参加して 会長 河野 洋平



ていません。ですが、県内には一つのスキー場もないのです。わが選手団が全国大会レベルに達するには、十分な練習場と時間が不可欠なことは、ご承知の通りです。スキー場ゼロのハンディキャップをどう克服するかが、これからの課題となります。参加に意識を認める時代から、参加の内容、つまり、勝利を射程に入れるべき時機にそろそろ差しかかっているという認識が、県連にも選手団の間にもいよいよ高まっているからです。ハンディキャップにめげず、悔いを残さない大健闘で第三十八回大会を終えられた佐々木峻隆監督初め選手の方々、舞台裏で支えられた県連の方々、本当にご苦労さまでした。来年、再来年の大会を目指して皆様とともに知恵をしぼり、スキー場ゼロ、超越の方途を模索しましょう。

県連と協会との関係や運営等について忌憚のない意見を伺い、私どもこれが実行できるような努力をして参りました。これからのような大会を計画的に開き県連・協会・クラブ間のコミュニケーションを深め雪無畏のスキー連盟のあり方についての方向を探っていきたく思います。年末に実施した北海道スキーは、どこも雪不足で滑れるスキー場は皆無という状況でしたが、さすが北海道、一寸少なめでしたが、粉雪を十分に楽しむことができてました。今回は約三〇〇名という多くの方のご参加をいただき、一つの事故もなくこの大きな行事が終了したことは参加者はもちろん、関係者一同のご協力の賜物と感謝いたします。本年の普及関係では優秀な指導者が多数誕生しました。今後の県連内の指導力の強化に大いに期待できます。また、基礎スキーの選手権にも選手を送り逐次レベルアップをはかることができました。強化関係では全日本国体と選手を送り各選手もいままでは成績を上げてきましたが、上位入賞までにはいりませんでした。これからの強化が必要と思われ

特に今年は草津国体に河野会長が、神奈川県選手団の団長として参加され、選手団の先頭に立って堂々入場行進されたことは感激でした。これからは県連発展のため機会を作って行事にご参加いただければと思います。とに角県連は、スキーの好きな人の集まりです。雪の上はもちろん雪のない県内でも友好を深め県連がますます発展できるようにがんばるつもりです。加盟協会クラブのみならずの層のご協力をお願いいたします。



# 12th INTERSKI SESTO, ITALY

## ●世界スキー指導者会議

### インタースキーに参加して

(助)全日本スキー連盟基礎教育本部顧問

松浦益司郎



第十二回世界スキー指導者会議がイタリアの北西部、オーストリアとの国境にほど近いセスト村で開催された。

一九八三年一月十五日から二十二日までの八日間、わたり世界の先進スキー国から二十九ヶ国の代表が参集した。今回、私は幸いにも視察団長として参加し、インタースキーを客観的に見るこの出来る好機に恵まれたので、いささかの感想を述べてみたい。

一九五一年、オーストリアのツールスで第一回が開催されてこのかた三十有余年の間に十二回の歴史を持つこの会議、その発端は、各国スキー会の指導者的な立場にある人達が第二次世界大戦中の疎遠を取り戻し、お互いにより親密

な交流を持つてはならないかという単純な発想から始まったものであった。

その初期においては二年毎に、第五回(一九五九年、ポーランド・ザコパネ)からは三年毎に、そして第九回(一九七一年、西ドイツ・ガルミッシュ・パルテンキルヘン)以降は四年毎に一回開催されることになり、オリンピックの前年に開催されるのが通例となり今日に及んでいる。

このインタースキーの歴史の中で、その創世期から第九回のガルミッシュ・パルテンキルヘン会議あたりまでは主としてホットなスキー技術論が繰り返されてきた。ローテーション技法とバインシユビール技法が代表されるフランス系とオーストリア系との各国間で闘わされた大論争などは、私達スキー関係者の中では今だに生々しい記憶として残っている。伸身技重や屈身技重などの技法は、大概この間に論じられたテーマである。

第十回会議は、チェコスロバキアのピソケトリで開催されている。ポーランド・ザコパネで開催された第五回会議以来十六年ぶりに共産圏での開催ということも話題になった。この時は私も日本代表として参加し、その時に日本での第十一回蔵王会議開催を決定する事ができた。この記念すべき会議以降今回の会議までは、主として指導理論を中心に議題が展開されている。

このような経過をたどったこの会議の重要性に異論を差しはさむつもりはないが、いささか批判めいた感想も持たざるをえないので若干触れておきたい。

どちらかというと個人的色彩の強い技術論争の場であった創世期

から、各国代表団が参加し会議自体の巨大・多様・複雑化が強まった中期まで、更には前回の蔵王会議あたりになると、スキーのデモンストレーションを中心としたシヨウ的傾向が目立つようになり、会議目的や意義がいささか歪められて来つたように思えてならなかった。

しかし、このイタリアの片田舎で開催された今回の会議は、これまでのお祭りの色彩をひそめ質素な内にも会議本来の目的や趣旨が遠ざけられることなく何とか終了した。このことは、あるいはインタースキーもひとつの大きな曲り角に差し掛かったようにも感じられてならない。そのひとつに、デモンストレーション中心型の理論発表は時間的制約のあることにも原因があるが、とかく断片的な各論偏執的に陥りやすく、これまでもたびたび誤解を招くことも無くはなかった。

今回の日本チームのデモンストレーション発表にいたっては、その正確な演技への賞讃を除けば、だしい酷評を耳にした。ここに至る関係者の努力を思うにつけはなはだ残念であった。

従来のインタースキーでの発表は、日本の環境、風土に合致した、また日本人の体型により合致したスキー技術、理論及び指導法へ発展させるため努力が繰り返されてきた。にもかかわらず今回の日本の発表技術を見ると、各国に較べて至って難解で目的やねらいが抽象であったといつてよいであろう。指導法を例にとれば、代発的なスキー先進国の幾つかが身体の全体の動きとバランスを大事にしなから各論にとらわれることなく理論展開をしており、どの国でもより合理的に簡素化しよりやさしく教えることに専念していた。私は日本のスキー界の将来のためにも今回の各国からの批評を謙虚に受けとめて、今後のインタースキーにおける発表方法や理論展開のあり方を検討しなければならぬと考える。いやしくも一國を代表するものとして世界に向けて正確に理

解されるよう一層の研究と研鑽をのぞむものである。

さて、技術的なことが最後になつてしまつたが、とかく誤解されがちな交互操作と荷重感覚について、その留意点に簡単にふれてみたい。

交互操作の重要性について改めて論ずるつもりはないが一般的に左右のスキー間の荷重移動、極論すれば外足から外足へと外足一辺倒のスキー操作に陥り易い。ワールド・カップの一流選手の滑りに見られるように、彼らも一様に交互操作を行なっているが、見逃してはならない大事な点は荷重ポイントのあり方ではなからうか……。

足裏の母指球・小指球及び踵の三点に荷重ポイントがある。シャープな回転弧を誘導する荷重ポイントは、外足側の母指ポイントで貯えられた抗力を利用して交互操作によって内足側スキーの小指ポイントに意識的に荷重移動を行なうことによつて得ることができ、簡単にいえば、交互操作における内スキーの積極的・効果的な活用をすることが肝要であるということである。

ヘグル・プツィングの感覚での足首を中心とした足裏の荷重操作感覚とは、ただ単につま先と踵の前後移動感覚だけでなく、前述の三つのポイントを意識した交互操作感覚を加えることによつてより強靱でシャープなターンを生み出すことが出来るのである。内スキーの積極的活用が今後ますます重要課題として強調されなければならぬ。

この様な技術の本質要素を理解したうえで、指導のあり方を考えるべきではないだろうか。

今が日本のスキー界の発展のために新しい観念に立つて見直す時期であるだろう。

## 多用された上下動

(助)全日本スキー連盟専門委員

片 忠 夫

一九六五年オーストリアのバドガスタインで開催された第七回会議に役員一名と、デモ五名を日本は派遣した。

『天下に名だたる日本の体操チームがスキーに乗って今、バドガスタインに現われた。そして堂々のデモンストレーションである。これはイガヤ(猪谷千春)の銀メダルに次ぐ、日本のスキーについて大きな話題である。』と、当時現地のマスコミはその驚きを日本に伝えたと言つた。

以来日本はこの会議で得たものは大なり、小なり、枚挙にいとまがない。今回日本は約百五十名もの人をイタリア北部の美しい村セストへ送り込んだ。そして第十二回インタースキーは日本を世界のスキーへ大人の仲間入りをさせた。

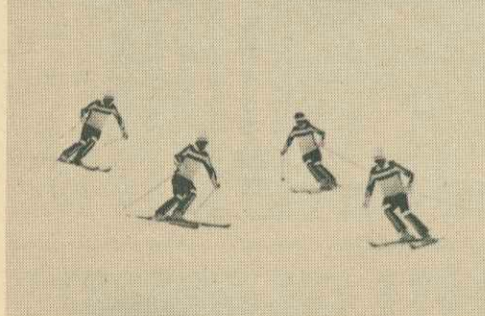
インタースキーの抱える課題はたくさんある。日本の基礎スキー界が、それをベースに更に発展しなければならぬ。スキージャーナルの誌上で某ジャーナリストは鋭くそれを批判したが、今の日本にそんなものは問えるだろうか。必要なのは確固たる、日本の技術の確立ではなからうか。民意を得てつくりあげた現教程を大切にしつつ、必要あらばそれに修正を施せば良いのではなからうか。もっと組織的な内面へ目を向けて欲しいと思ひ、その充実に願うのは私一人ではあるまい。

今回各国のデモンストレーションを悉くに見て感じたことは上下動の有効利用である。開催国イタリアは、当然のことながら、開催国と言う立場で、イタリアスキー史を展開しながら、初・中級の練習過程で、上下動を強調した。そして結局、切れの良いターンを競技スキーへと結んだ。オーストリアの洗練されたデモンストレーションは今も脳裏に焼きついて離れない。なんと無駄の無い動きなんだろうか。『シュビンゲン』それは今、各国が大なり小なり考えていることでもあろう。

『次のターンの内スキーを踏み蹴って、次のターンの外スキーに荷重を移す。』日本の考え方も共通する点である。更に制動(ズレ)の少ないシャープなターンへと導き、それが結果競技スキーへとつながっている。

西ドイツは、『上下動の有効性』と題し、その許容範囲へ目を向けた。やはり上下動の有効活用である。

スイスもテーマは矯正法であるが、その滑



それらに比し、フランスは今までと異り、上下の運動をおさえて、ベグルモーションを取り入れた。奇妙にもそれは日本の加圧と同様に思えた。カナダ、アメリカは独特のデモを展開した。特にアメリカは毎回そうであるが、遊びの要素を多用し、一般スキーヤーの心理に重点を置いた。私も直接アメリカメソッドを教わりながら深く感銘し、共感を得た。

以上、主たる国々の私から見た感想である。

コルチナダンベツツオー、オーストリアサンアントン、サンクリストフ等々、素晴らしい晴天に恵まれ、ヨーロッパの醍醐味を満喫した。そして地元の少年、少女のスーパージャイアントの練習をも見、己で滑ってみて、世界のスケールの大きさと、その壁の厚さにも驚いた。

更に加えるならば、夕日に沈む、美しい静かな村セストその一角に位置する、ホテルワールドハイム、野蠻な東洋人四人は、ビデで洗ったグラス(???)に最高のコニヤックで、これまた知られざる世界の夜をも満喫して帰国した。

アラボーセスト  
アラボーインタースキー



# 強化部

●第5回神奈川県民体育大会  
第38回国体スキー競技会神奈川県選考会

アルペン競技

会期 昭和58年1月20日～23日  
会場 戸隠高原スキー場

例年の雪不足の戸隠スキー場ではあったが、2日間のコース整備によりまずまずのコースで開催することができ、選手諸兄の協力によるコース整備で競技会運営が順調に進み怪我人を出さずに終了することができた。

○全日本選考会・回転の部

(女子の部)

- 一位 馬淵洋子 (日本女子大) 一分〇九秒六五
- 二位 熊谷総志 (高体連) (三五秒七八・三七秒七三)
- 三位 大下桃子 (日本女子大) (男子の部)
- 一位 榎並雪彦 (平塚スキー) 一分〇三秒三七

○全日本選考会・大回転の部

(女子の部)

- 一位 馬淵洋子 (日本女子大) 一分〇八秒五二
- 二位 大下桃子 (日本女子大)
- 三位 熊谷総志 (高体連) (男子の部)
- 一位 榎並雪彦 (平塚スキー) 一分〇〇秒九一

○県民大会兼国体選考会

(成年女子二部)

- 一位 松岡雅子 (川崎スキー) 一分〇五秒八八
- 二位 池田美幸 (スポーツマン)
- 三位 松原久美 (ヴァウアント)

(成年女子一部)

- 一位 高木由美子 (カメ) 一分〇五秒七三
- 二位 木下桃子 (日本女子大)
- 三位 石川葉仁 (逗子スキー) (少年女子)
- 一位 熊谷総志 (高体連) 一分〇三秒九七

(成年男子三部)

- 一位 岡本敦英 (国電中原) 一分〇〇秒二二
- 二位 国中邦規 (横浜スキー)
- 三位 高橋謙吉 (アルペン) (成年男子二部)
- 一位 柏木 勉 (川崎ウルル) 五八秒二九

- 二位 沼田直美 (高体連)
- 三位 古藤志保 (相雪)
- 一位 岡本敦英 (国電中原) 一分〇〇秒二二
- 二位 国中邦規 (横浜スキー)
- 三位 高橋謙吉 (アルペン)

(成年男子二部)

- 一位 市村好次 (個人) 五八秒二九
- 二位 菊地富士夫 (横浜スキー)
- 三位 榎並雪彦 (平塚スキー)

(成年男子一部)

- 一位 羽賀 清 (横浜スキー) 五五秒五八
- 二位 伊藤明成 (ユール) (少年男子)
- 一位 安藤一彦 (高体連) 五八秒三三

(少年男子)

- 二位 三枝 修 (高体連)
- 三位 阿部一彦 (高体連)
- 一位 ノルディック競技

会期 昭和58年1月22日～23日

会場 尾瀬岩鞍スキー場

- 二位 山本信義 (川崎スキー) 二分〇八秒四四
- 一位 山本信義 (川崎スキー) (男子四部)
- 二位 大原伸悦 (アルペン) 一分五二秒七六

(男子四部)

- 二位 石井 光 (アルペン) 一分五二秒七六
- 三位 福沢洋治 (横浜同好会) (男子三部)
- 一位 関根広美 (横浜スキー) 一分四七秒〇二

(男子三部)

- 二位 高橋謙吉 (アルペン) 一分四七秒〇二
- 三位 前田惣一 (クイック) (男子二部)
- 一位 柏木 勉 (川崎ウルル) 一分四三秒五七

(男子二部)

- 二位 馬場敏雄 (アルペン) 一分四三秒五七
- 三位 山根功 (キャタピラ三菱) (男子一部)
- 一位 佐藤寿夫 (日本電気玉川) 一分四七秒三八

(男子一部)

- 二位 浦島秀明 (日本鋼管京浜) 一分四七秒三八
- 三位 江部広治 (富士通) (少年男子)
- 一位 安藤一秀 (法政一高) 一分四五秒一九

(少年男子)

- 二位 岡田英男 (法政一高) 一分四五秒一九
- 三位 倍賞耕二 (東芝)
- 三位 土居邦彰 (高体連)
- 県選手権大会・大回転
- (女子二部)
- 一位 池田美幸 (スポーツマン) 一分〇六秒五五
- 二位 下山秀子 (横浜スキー)
- 三位 伏屋真澄 (スポーツマン)
- (女子一部)
- 一位 井上玲子 (日本女子大) 一分〇三秒七七
- 二位 四手井晶子 (教職員)
- 三位 中村孝子 (東芝)
- (男子五部)
- 一位 丹羽一夫 (横浜スキー) 一分〇五秒二五
- 二位 山本信義 (川崎スキー)
- 三位 村石 勲 (いすゞ川崎)
- (男子四部)
- 一位 大原伸悦 (アルペン) 一分〇〇秒八七
- 二位 田中史武 (横浜同好会)
- 三位 石井 光 (アルペン)
- (男子三部)
- 一位 深見和男 (スポーツマン) 五八秒二六
- 二位 田中邦規 (横浜スキー)
- 三位 前田惣一 (クイック) (男子二部)
- 一位 柏木 勉 (川崎ウルル) 五七秒二九
- 二位 馬場敏雄 (アルペン)
- 三位 山根功 (キャタピラ三菱) (男子一部)
- 一位 江部広治 (富士通) 五七秒六〇
- 二位 安藤一秀 (高体連)
- 三位 加山明人 (高体連) 五七秒六〇
- (男子一部)
- 一位 戸沢真美 (泰雪) 一分〇四秒七三
- 二位 鈴木洋介 (川崎ウルル) 一分〇三秒八三
- 三位 山根功 (キャタピラ三菱) (女子一部)
- 一位 吉田春雄 (日立神奈川) 一分〇三秒八三
- 二位 宗田敏之 (ユール) (男子一部)
- 一位 伊藤明成 (ユール) 一分〇二秒四六
- 二位 吉田秀幸 (郡上レイシニング) 一分〇二秒四六
- 三位 江部広治 (富士通) (少年)
- 一位 塚脇 誠 (ユール) 一分〇二秒四六
- 二位 黒屋善行 (ユール) 一分三三秒一五
- 三位 河村猛 (関西スラローム) 一分三三秒一五
- 大回転競技
- (女子)
- 一位 井上玲子 (シルバースパーク) 一分二五秒五二
- 二位 高木由美子 (カメ)
- 三位 原田淳子 (男子五部)
- 一位 奥崎喜久 (港スキー) 一分三〇秒三〇
- 二位 岡本重男 (ユール) 一分三〇秒三〇
- 三位 青木規生 (横浜教職員) (男子四部)
- 一位 田中史武 (横浜同好会) 一分三〇秒三〇
- 二位 山本 稔 (てんぐ) 一分三〇秒三〇
- 三位 福沢洋治 (横浜同好会) (男子三部)
- 一位 深見和男 (スポーツマン) 一分二〇秒四〇
- 二位 鈴木洋介 (川崎ウルル) (男子二部)
- 三位 戸沢真美 (泰雪) (男子一部)
- 一位 田中賢治 (関西スラローム) 一分一八秒六七
- 二位 山根功 (キャタピラ三菱) (男子一部)
- 三位 宗田敏之 (ユール) 一分一七秒三五
- 一位 郷津一夫 一分一七秒三五
- 二位 伊藤明成 (ユール)
- 三位 六弥太恭行 (大町スキー) (少年)
- 一位 矢野原久 (郡上レイシニング) 一分二三秒七〇
- 二位 塚脇 誠 (ユール)
- 三位 黒屋善行 (ユール)

# 普及部

●指導員研修会

昭和58年度全日本スキー連盟公認基礎スキー指導員研修会は、信州総合開発(株)の宿舎、リフト等の万全の受入れ体制の中で、県下の半数近くの指導員三九〇名を集めての研修会となった。

会期 58年1月8日～9日  
会場 車山高原スキー場

今年度の研修会テーマである、「ブルックによる交互操作」を中心に、デモンストラーターによる模範演技と解説と19班の編成による研修がくりひろげられた。

●準指導員検定会

戸隠の山並みが白くツツキリと見せる好天に恵まれた戸隠スキー場で、昭和57年度準指導員検定会は実施された。

会期 58年2月25日～28日  
会場 戸隠高原スキー場

- (合格者一覧) (順不同)
- (横浜)
- 堀 祐樹 島山裕二 剣持安則
- 棚橋昭夫 本田俊章 宮坂 任
- 津吉孝司 鈴木 郁 小野喜四郎
- 横川 昭 小塚久雄 井戸ゆりえ
- 鈴木昌彦 齊藤隆夫 福田あさ美
- 藤 裕司 小田島誠 小豆畑英次
- 窪田 篤
- (座間)
- 高木 孝 大賀 栄 藤ヶ崎直樹
- (伊勢原)
- 大野 真 大畑桂子
- (厚木)
- 小糸末雄 平松正嗣
- 大淵泰蔵 (相模原)
- 相模ハローモニー
- 義達治良 (大和)
- 大和スキー同好会
- 藤田謙一 (横浜)
- クラブ・ド・ネージュ
- 田場川博 (川崎)
- 原田 実 (川崎)
- 小関博喜 (相模原)
- 相模ハローモニー
- 二階堂治紀 (川崎)
- 山田文男 (川崎)
- 清水佳代子
- 川畑久一 長谷川克己
- 伴 浩生 成田智治 加藤秀雄
- 西村利郎 松本 正 日野明人
- 向後洋生 飯島 修 石渡義比呂
- 中澤明子 辻 慶一 五十嵐義広
- 本多幸治 金井 宏 覚正理香
- 宗田裕司 田崎俊章 永瀬えり子
- 渡辺 実 須川育春 村上健三 (川崎)
- 馬淵雅己 小川和三 杉本利夫
- 近藤公昭 笠谷慶一 佐藤 茂
- 小野未夫 絹山正大 阿部千恵子
- 呉比哲司 川口和男 増田裕見子
- 渡辺雅一 松尾修一 竹村英明
- 岩間道雄 小沼 博 (小田原)
- 本間昭治 村越 進 大谷 隆
- 野沢洋治 (相模原)
- 小川幹郎 大橋由子 柴田利佳子
- 小林隆一 郷田一太 三浦利枝子
- 長内 寿 和智治男 力石一穂 (藤沢)
- 溝水洋之 (鎌倉)
- 熊沢一二 (大和)
- 工藤幸弘 篠嶋敬三 森沢貞雄
- 八木繁和 永島幹夫 坂井 登
- (足柄)

●昭和58年度デモンストラーター

松本伴之 (横浜)

シーフエル

鶴瀬 裕 (小田原)

エリア

及川城司 (横浜)

横浜クイック

上田 稔 (横浜)

SOS

細川弘幸 (大和)

大和スキー同好会

高木雅寛 (相模原)

相模ハローモニー

東海林延友 (藤沢)

バイスパイム



- 二位 黒屋善行 (ユール) 一分三三秒一五
- 三位 河村猛 (関西スラローム) 一分三三秒一五
- 大回転競技
- (女子)
- 一位 井上玲子 (シルバースパーク) 一分二五秒五二
- 二位 高木由美子 (カメ)
- 三位 原田淳子 (男子五部)
- 一位 奥崎喜久 (港スキー) 一分三〇秒三〇
- 二位 岡本重男 (ユール) 一分三〇秒三〇
- 三位 青木規生 (横浜教職員) (男子四部)
- 一位 田中史武 (横浜同好会) 一分三〇秒三〇
- 二位 山本 稔 (てんぐ) 一分三〇秒三〇
- 三位 福沢洋治 (横浜同好会) (男子三部)
- 一位 深見和男 (スポーツマン) 一分二〇秒四〇
- 二位 鈴木洋介 (川崎ウルル) (男子二部)
- 三位 戸沢真美 (泰雪) (男子一部)
- 一位 田中賢治 (関西スラローム) 一分一八秒六七
- 二位 山根功 (キャタピラ三菱) (男子一部)
- 三位 宗田敏之 (ユール) 一分一七秒三五
- 一位 郷津一夫 一分一七秒三五
- 二位 伊藤明成 (ユール)
- 三位 六弥太恭行 (大町スキー) (少年)
- 一位 矢野原久 (郡上レイシニング) 一分二三秒七〇
- 二位 塚脇 誠 (ユール)
- 三位 黒屋善行 (ユール)
- 三上久直 吉川晴夫 清水佳代子
- 篠田 一 川畑久一 長谷川克己
- 伴 浩生 成田智治 加藤秀雄
- 西村利郎 松本 正 日野明人
- 向後洋生 飯島 修 石渡義比呂
- 中澤明子 辻 慶一 五十嵐義広
- 本多幸治 金井 宏 覚正理香
- 宗田裕司 田崎俊章 永瀬えり子
- 渡辺 実 須川育春 村上健三 (川崎)
- 馬淵雅己 小川和三 杉本利夫
- 近藤公昭 笠谷慶一 佐藤 茂
- 小野未夫 絹山正大 阿部千恵子
- 呉比哲司 川口和男 増田裕見子
- 渡辺雅一 松尾修一 竹村英明
- 岩間道雄 小沼 博 (小田原)
- 本間昭治 村越 進 大谷 隆
- 野沢洋治 (相模原)
- 小川幹郎 大橋由子 柴田利佳子
- 小林隆一 郷田一太 三浦利枝子
- 長内 寿 和智治男 力石一穂 (藤沢)
- 溝水洋之 (鎌倉)
- 熊沢一二 (大和)
- 工藤幸弘 篠嶋敬三 森沢貞雄
- 八木繁和 永島幹夫 坂井 登
- (足柄)

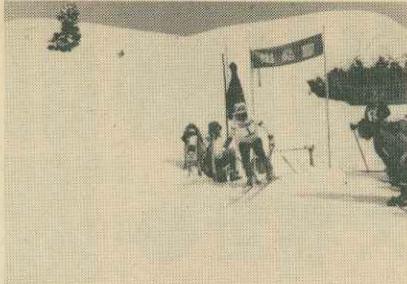
# 総務部

## ●第2回ロシニョール杯 オール神奈川スキーヤーズ大会

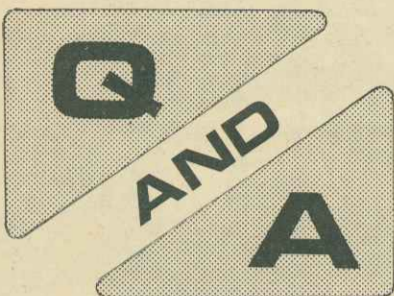
会期 昭和58年3月6日  
会場 上越国際スキー場

三月の強い日差しが真白いゲレンデにつきささる、春の気配をかすかに感ずる上越国際スキー場。2回目となったオール神奈川スキーヤーズ大会は、一般の参加から指導員、競技選手の幅広い層を対象に企画され、多くの参加を得て和気あいあいな雰囲気の中で進行した。

- (指導員の部(女子))
- 一位 榎本千恵子(川崎スキー)
- 二位 伊藤章恵(川崎スキー)
- 三位 福山和江(古い帽子の会)



- (競技選手の部(女子))
- 一位 高木由美子(カメ)
- 二位 伏屋真澄(スポーツマン)
- 三位 四手井晶子(教職員)
- (一般女子の部)
- 一位 井 玲子(シルバースパ)
- 二位 後藤綾子(てんぐ)
- 三位 井上佳子(シルバースパ)
- (オールドパワ(男子A))
- 一位 三塚正二郎(相雪)
- 二位 土田弼輔(川崎スキー)
- 三位 柳沢須佐男(ユーベル)
- (オールドパワ(男子B))
- 一位 和久井民雄(平塚スキー)
- 二位 青木規生(教職員)
- 三位 押川泰夫(逗子同好会)
- (競技選手の部(男子3組))
- 一位 大原伸悦(アルペン)
- 二位 丹羽一夫(横浜スキー)
- 三位 中島知子(一般)
- (競技選手の部(男子2組))
- 一位 関根広美(横浜スキー)
- 二位 深見和男(スポーツマン)
- 三位 岡山正利(スポーツマン)
- (競技選手の部(男子1組))
- 一位 伊藤明成(ユーベル)
- 二位 浦島秀明(NKK)
- 三位 宗田敏之(ユーベル)
- (少年の部)
- 一位 塚脇 誠(ユーベル)
- 二位 川瀬秀実(ユーベル)
- 三位 黒尾善行(ユーベル)
- (指導員の部(男子5組))
- 一位 山本信義(川崎スキー)
- 二位 山崎七郎
- 三位 岡本重男(ユーベル)
- (指導員の部(男子4組))
- 一位 山本 稔(てんぐ)
- 二位 福沢洋治(横浜同好会)
- 三位 田部井克之(山手スキー)
- (指導員の部(男子3組))
- 一位 前田窓一(クロイツラー)
- 二位 戸沢真美(秦雪)
- 三位 土屋広夫(NKK)
- (指導員の部(男子2組))
- 一位 吉田春雄(日立神奈川)
- 二位 三塚洋二(相雪)
- 三位 善家英人(川崎スキー)
- (指導員の部(男子1組))
- 一位 井 千歳(カメ)
- 二位 秋元克之(スベロー会)
- 三位 細川直行(平塚スキー)
- (一般の部(男子2組))
- 一位 鈴木有國(富士通)
- 二位 小林俊夫(横浜スキー)
- 三位 平塚 仁
- (一般の部(男子1組))
- 一位 上村隆一(日産車体)
- 二位 荒谷定昭(一般)
- 三位 村上俊行(一般)



## Q 指導員研修会に欠席

今年度の指導員研修会に申込みましたが、身体の具合が悪くなりその後入院してしまい、現在通院中ですので、(B)研修及び(C)研修に出席が出来ません。また前年度の研修会も都合により欠席し二年連続欠席となりますので診断書を送り致しました。よろしくご配慮の程お願いいたします。

## A 指導員資格はオーケー

わざわざ診断書まで添えての欠席届をありがとうございます。お

## ●総務部

当連盟は、登録クラブ数一七〇余、会員数四五〇〇名を越える全国でも有数のマンモス連盟です。総務部では、今シーズンもこのような多くの会員の皆様の各種登録や行事参加等の事務を円滑に処理することに全力をあげてまいりました。しかし乍ら、年々増加する事務量を、正確かつ迅速に処理して行くには、会員の皆様の御協力を欠かすことは出来ません。

ところが、残念ながらまだ会員の方々のなかには定められた方法での諸手続等が徹底されていない面が見受けられます。例えば、既

に実施して数年になり多数の方々に利用されている諸費用の銀行振込制度につきましても、再三お願いをしていますがまだ不完全な振込手続があるため、毎年のことから事務局員等が振込金の整理に悪戦苦闘しています。

## 各部 から 一言

### ●強化部

昨年からオフトレーニングの開始から一月の選手会迄今年も又雪不足につき練習不足の多い選手が続出しました。

一月の戸隠は何か開催出来ましたが選手諸君の協力によるものと思ひ感謝しております。

自主運営の方式も毎年研究しておりますがまだまだ満足のものではありません。特にジャッジの問題につきましては来るシーズン以降は可能な限り旗門員程度は選手以外の人達にお願い出来ればと考えております。

今後運営費と参加料の兼ね合いをはかり調整したいものであります。

全国的なレベルからみても神奈川県は決して技術的に劣る点はありません。今後は更に若いジュニアの層を拡大し競技力の向上に努力してゆきます。特にスキーの

## ●正指導員検定合格者

- 菊地信美(横浜)
- 藤田謙一(横浜)
- 泉 勝弘(小田原)
- 横島敏夫(横浜)
- 野地澄雄(小田原)
- 遊佐 勉(横浜)
- 高木雅寛(相模原)
- 吉水雄二(川崎)
- 越前谷秀隆(横浜)
- 石黒純爾(横浜)
- 山田文男(川崎)
- 原田 学(横浜)
- 佐藤源之(横浜)

必要な時に、必要な場所へ、必要だけ降ってくるのが、なんといい最も良であるが、今シーズンはまいった。雪不足のまま年始といった具合で、やきもきた年であった。

ともあれ、普及部各行事も全て無事終了しました。各行事に際して、各市協、各クラブの関係者の皆さんの、ご協力に對して紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

### ●普及部

必要な時に、必要な力で、必要だけ行なえる、というのがスキー技術の極意だと思いが、これがままならないから、スキーはおもしろい。ところが同じままならぬことでも、こと雪ということにな

これから冬まで、それぞれ皆さんで考え、あの足下でキョッと鳴くパウダースノーの感触をめざして、今年の夏を頑張ってください。

ともあれ、怪我人もなく各行事を無事終えてホッとしています。



佐々木 峻



柴田 伸彦



鈴木 克美

ルベン種目はスピードを身につけることが大事です。小学校の時代からスピードに対する感を得る身につけなければ上達が難しいスポーツです。是非今後は小、中学校のジュニアの部門を充実させたい意向であります。しかし他県に比べ本県の状況は遅れております。今後はこの部門を充実させるべき努力をし秋迄には具体案を出してみたいと思っておりますので、小、中学生の子供をお持ちの会員諸氏の御協力をお願い致します。

## 編集後記

### ●広報委員会活動再開

広報委員会が活動を開始し次号の「SAKだより」から身近な新聞、親しみある新聞、「み」のある新聞を目指し、内容の一新を図るべく激論を交しています。

### ●トラレマセウカ?

競技会・研修会などの行事に参加して、あなたに向いたレッスンの気配を感じませんでしたか? 小生の「激写」写真集が県連事務所に置いてあります。もし、シャッター音を聞いた覚えのある方は、一度見に来てみませんか? ※原価でお待ち帰り下さい。

### ●協賛宿舎一覧

- 常山旅館
- 見晴館
- ロッジ田中
- 萩原館
- 中央ロッジ
- 村上館
- 護城館
- 峠旅館
- 東栄荘
- 雪国荘
- 古町旅館
- 福田屋旅館
- 鈴木旅館
- 越後屋旅館

## ●協賛会員

- 協賛企業等一覧
- IBS石井スポーツ
- ㈱エントリーズ・ワールド
- ㈱小賀坂スキー製作所
- オー・ビー・オー技研
- カザマススポーツ販売㈱
- 国内旅行開発㈱
- サニースポーツ
- 信州総合開発観光㈱
- ㈱実工設計
- スポーツショップジョイ
- ホテル多喜本
- ㈱横浜高島屋
- 大和観光興業㈱
- つるやホテル
- ㈱デサント
- 日本航空㈱
- 日本ビタス観光光㈱
- 日動火災海上保険㈱
- 日本ランド遊園
- 新潟県観光公社
- ㈱野村ツーリストビューロー
- 花文
- プレイガイドトラベル
- ㈱ホクシン印刷
- ㈱松浦スポーツ
- ㈱マルセイスポーツ
- 民宿マルイ屋
- ㈱武蔵小杉増田屋
- 三井物産スポーツ用品販売㈱
- 美津濃㈱
- みや川
- 森スポーツ
- もうひとつの風景
- ㈱山田ニット
- ㈱横浜学校給食パン加工場
- ロッジ飯島
- 越水ロッジ
- 白樺ロッジ
- シャレール戸隠
- 高妻ロッジ
- 戸隠高原ホテル
- 戸隠ロッジ
- 戸隠高原荘
- パードホテル
- ホテル戸隠
- やまびこ荘
- 山小舎まるや
- 和田山荘
- 山田館
- 岡村旅館